

# 市政の ?を 問いました



# 大綱質疑

9月定例会では、全会派が大綱質疑を行いました。

## 議第1号

**問** マイナンバー制度の目的と市民生活への影響、情報漏えいに関する安全対策はどうか。

**答** 公平、公正な社会の実現、国民の利便性の向上および行政の効率化を目的とし、三条市の住民情報系システムは専用回線で管理され、情報が流出することはない。

## 議第11号

**問** 設計の段階で地盤の悪さを把握できなかったのか。工期に遅れは生じないか。

**答** 建物下部の支持層において不規則な起伏の存在があった。工期に遅れはない。

## 議第12号

**問** 緑地整備費の増額理由と工期に遅れはないか。

**答** 地盤が緩く地下水位も高いことから矢板を長くするもの。工期に遅れはない。

**問** 大崎中学校区小中一体校建設事業において、遺跡調査による供用開始に影響は。

**答** 遺跡調査終了後、平成30年4月の開校を目指す。

**問** パルム横断歩道橋の解体工事約600万円の増額が必要となった理由は何か。

**答** 労務費の上昇、夜間作業の工事内容の変更、それに伴う人件費の増、建物とのつながり部分の処理の仕方の変更などが要因。

**問** 4款衛生費について、清掃センター火災による修繕費が計上されているが、火災の原因は何か。また、今後の火災対策を含めた修繕費か。

**答** 穴開けがされていないスプレー缶の破裂による火災。予算は焼損したコンベアー等の復旧に関する費用のみ。

**問** 10款教育費小中一体校施設整備費について、第一中学校・嵐南小学校の落雪対策費用だが、安全確保はもちろん必要だが、ひさしの設置は過剰設備ではないか。さらに、融雪ヒーターは本体の工事請負費の中に含まれていたのではないか。

**答** 融雪ヒーターは、指摘の通り設計書に記載はあるが、図面には記載がない。設計者および

## 認定第1号

び監督員が確認の上、ここにヒーターは設置しなかった。

**問** 主要財政指標の状況と今後の財政の見通しはどうか。

**答** 決算剰余金など約3億1000万円を積み立て、残高の確保ができた。財政調整基金で賄う状況が続くものと思う。

**問** 新経営戦略プログラムの財政シミュレーションと比較した全体感はどうか。

**答** 主要財政指標は想定よりやや良好に推移しており、長期的見通しでもコントロール可能。

**問** 国の緊急経済対策による予算執行上の効用は、どの程度

度あったのか。

**答** 後年度の公債費など約17億円の負担軽減ができた。

**問** 収納率向上を図る新たな取り組みについてどう考えるか。

**答** 玄米を差し押さえてネット公売した実績はあるが、国税・県税での取り組みや先進地の事例を調査、研究し、有効な手法は積極的に取り入れていきたい。

**問** 教育費貸付金元利収入、奨学金貸与の状況について、平成26年度の貸与者は40人で金額は2160万円である。三条市の奨学金制度は、利用者が卒業して三条市に戻るなど一定の条件を満たせば奨学金の返還免除となる。対象者は、125人中56人である。一方、対象外のうち返還が滞っている人が8人おり、金額は155万4000円であるが延滞金の状況はどうか。

奨学金制度は、公営住宅の使用料などと同様に延滞金が生じないような貸与金の名称を外すなどの工夫をするべきと思うがどうか。

**答** 奨学金の遅延利息は、奨学金貸与条例施行規則第16条の正当の理由がなく返還を怠った

ときは、遅延利息を徴収することができる規定に基づき、指摘の方については奨学金の返還ができる状況ではないという正当の理由から遅延利息は課していない。今後も奨学生の状況を考慮しながら奨学金貸与条例と同施行規則に従い、対応していきたい。

**問** 平成26年度決算で時間外勤務手当の削減目標や前年度の状況と比較しての結果、また今後の削減はどのように行うのか。

**答** 平成26年度の時間外勤務時間、平成25年度の実績と比較して時間数で2276時間の増加、縮減率では20%から16.9%に低下している。

今後の取り組みについては、特別対策として縮減の取り組みが適切に実施できていない課に対し、縮減計画を作成させ、具体的な取り組みを進めている。

**問** 一番星育成事業の学びのマルシェの参加者数、また事業の成果をどのように捉えているのか。

**答** 学びのマルシェの参加者数は、小学生129人、中学生79人。

成果については、中学1年生、2年生とも確実に偏差値が上がっている。また、勉強のやり方が分かってきた、家でも勉強するようになったなど学習への意欲が高まったと評価している。

**問** 10款教育費について、さんじょう一番星育成事業の学びのマルシェ参加者数は、当初予定に対してどうか。講師の派遣はどこに依頼したのか。

**答** 各教室30人を目標としたが約半分の参加だった。講師は一般公募による教員OBや大学生、および能力開発センターに委託した。

**問** 若年者雇用拡大奨励金について、2年目の事業である。市内における若年層の非正規雇用を減らし、正規雇用の増加および定着を図るため

正規雇用、常用雇用を増加させた事業所に対して奨励金を交付した。企業の反応や反響

